

【市外中学校の部 大賞】

「海の記憶」

松阪市立殿町中学校 三年

鈴木 未来

頬を撫でる風に誘われて来たのは、海
海を見ていると気持ち在和らぐ

心の糸が、ほぐれていく
深呼吸をして、体の中を潮の香りで満たす
走馬灯のように様々な想い出がよみがえる

小さい頃、砂浜で貝殻を集めたつけ
砂に埋もれて、少し顔を出している貝殻は
色々な色や形があつて、きれいで

私の宝物だった

耳にあてると、確かに波音が聞こえた

“また遊びにおいで” ってね

打ち寄せる波は、落書きをさらっていく

青や緑に煌いて、ゆらめいて

いたずらっ子の表情^{かお}して笑った

たくさんの空気の粒を連れて海へ飛び込む

深い青の底を見た
透きとおった水の色

昼間の突き刺すような日差しに
水面みなもが乱反射して
目眩がするような、そんな夏の景色

私の中の奥の方
流れ出した感情を受け止めてくれる海
包みこんでくれる海

日焼け止めの匂いと、ほてりを身にまとって
ベッドにもぐりこむ
澄んだ波音にまどろんで、意識を手放した

三月十一日の海を、波を私は知らない
海は全てを飲みこんだ、街も人も

私が知っているのは優しい海
あの日影など一つもない、真っさらな海
でも、私の夢の中
海は蒼くて、ひどく悲しい瞳をしていた